

第4回研究会におけるご意見と対応について

所属	意見	事務局回答	対応の方向性
新潟大学農学部	<p>洋上風力発電による鳥類への影響については現在研究中である。鳥類の衝突の事例から、どのような時に発生しやすいか調査することが重要である。</p> <p>ゾーニングでは客観的なデータから避けるべき海域を事前に把握することが重要である。</p> <p>順応的な管理として、供用後にもしっかり調査して、事業を進めながらも適切に管理していく体制構築が重要である。</p>	—	<p>鳥類に関する情報については、繁殖地や越冬地等の重要な生息地に係る情報は収集することができましたが、鳥類の観点から避けるべき海域については把握できませんでしたので、得られた情報をサブマップとして整理するとともに、留意事項として記載しました。</p> <p>事業者が、調査・予測・評価及び環境保全措置の検討を適切に行うよう、留意事項として記載しました。</p>
日本野鳥の会新潟県	<p>鳥類に関する情報をサブマップとして扱うことは問題ないが、鳥類の対応をアセスの段階で対応するとなると、これまでの陸域の風力発電のアセスと同じような手戻りが生じ兼ねない。サブマップの中でも特に重視すべきことがあるはずである。湿地と海域との間の移動について現地調査によりデータを取っておいてもよかったのではないか。</p> <p>安全な海域で事業実施していくためにゾーニングは重要である。事業者が判断を委ねすぎるとはゾーニングの意味合いが薄れる。</p>	<p>サブマップの情報も含めてまとめていけるようにする。</p> <p>広域での調査は、時間的、予算的制約により困難であった。</p>	<p>鳥類に関する情報や湿地と海域との間の移動については、サブマップや留意事項としてまとめました。</p> <p>鳥類の現地調査については、エリア区分にも関連する繁殖地の分布状況を中心に実施しました。</p>
新潟県野鳥愛護会	<p>渡りのルートを見ると、ほとんどの種が越佐海峡や岩船沖、村上沖、胎内沖の海岸線を北上している。ゾーニングマップ案では、海岸線沿いに着床式の可能な範囲とされている。浮体式の可能な範囲は、越佐海峡から粟島沖に示されているが、渡りルートにかかってくる可能性がある。データを活かして、的確なマップを作成していただきたい。</p>	<p>ゾーニングマップに反映する情報及びサブマップに反映する情報については、説明したとおりである。</p> <p>ゾーニングマップに反映しにくい情報をサブマップとしており、両者合わせてゾーニング報告書として整理していく。</p>	同左
新潟大学農学部	<p>重要な鳥類としてガン・ハクチョウ類が挙げられる。福島潟、佐潟等に渡来して、越冬中に海域と湿地を往来することがあり、留意する必要がある。サブマップやゾーニングマップに反映して頂きたい。</p>	<p>ゾーニング報告書では、配慮すべき場所を示し、事業実施の際に調査が必要なことについては、その旨記載して対応を促したい。</p>	<p>ゾーニングマップ整理の結果、広範囲が配慮・調整エリアに設定される結果となりました。これは、エリア設定については、ゾーニングマニュアルに従って、1項目でも配慮・調整エリアに係る項目が存在すれば配慮・調整エリアとすることになっているためです。</p> <p>配慮・調整エリアに設定された地域をみると、多くの情報が重複し配慮・調整すべき事項が多いエリア、洋上風力発電の立地検討にあたって現地調査等により環境配慮事項の有無及び程度を確認することが必要なエリアなど、重複の程度や配慮・調整事項の重みの程度が異なっています。</p> <p>報告書においては、配慮・調整エリアについて、関連のある項目ごとに分けて整理し、配慮・調整事項が分かるように整理しました。</p>